

# ふれあい

## 第三十七回近畿地区高等学校PTA 連合会研修会に参加しました。

平成二十三年七月二日(土)、びわ湖を主会場に近畿各地から、二千六百六十名の申込み参加のもと、会場いっぱいの熱気あふれる大会でした。本校PTAから、三名が参加しました。

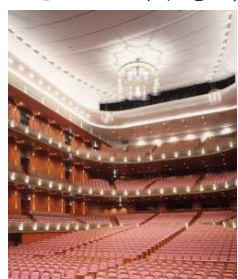
記念講演は、『尾木ママの「元気の出る」子育て論』(法政大学キャリアデザイン学部教授)でした。講演の中で、「企業は幹部採用の多くを外国からの留学生にしている。現地事業の展開に活用している。一方で日本の大学は就職留年者が多く、就職が厳しくなっている。グローバルな視野が必要だが外国への留学数は年々減り続け、安定志向になっていく。これからの社会を生きていく子どもたちの子育てを家庭(親)として考えるヒントがあるのでは!」と話していました。本校の通学高等部は、「自立と社会参加」を目指し教育を進めています。これからの変化の激しい社会の中で、地域の中で働き続ける基礎的な力をしっかりとつけていきたいとあらためて思いました。



午後からは会場をピアザ淡海に移り

大阪府立農芸高等学校PTAからは、「生と死」と題して、「実習を通して生徒達(我が子)は牛、豚、アイガモなどの誕生、飼育、そして屠殺のためにトラックに乗せるのも生徒達(我が子)が担い、生と死」を同時に学んでいる。命の尊さなどを家庭でも話すようになり、親と一緒に考える家庭教育に繋がっている。新聞等で高校生の自殺という悲しい報道を聞くとき、親ばかり言われても相談して子どもの味方に親はなる。親もPTA活動を通して仲間や友達を作っている。」と話していました。本校PTA活動も会員同士の繋がりを大切に役員さんを中心に取り組んで頂いていることをあらためて思いました。

神戸市立葺合高等学校PTAからは、「本校の教育とPTA活動」と題して、「高校生の我が子が殆どの生活を支める学校との連携、学校を通じての保護者との繋がりを大事だと考えている。委員会ではプリザーブドフラワーでの作品制作、ボーリング大会、料理講習会、そしてPTA通信の年三回発行が取り組まれている。」と話していました。本校PTA活動も見学会や新企画など会員が楽しく参加してみたい内容をさらに充実させて



いきたいと思います。

## 平成二十三年度京都府PTA 指導者中央研修会に参加して

平成二十三年七月十二日(火)、国立京都国際会館を会場に開催され、本校PTAから三名が参加しました。

午前中は「親子の絆 地域の絆づくりに向けて」と題して、パネルディスカッションがありました。宇治市立西小倉中学校PTAの実践発表では、「PTA会員が家庭に花壇を作り花を育てる取組を通して、子ども達に親の後ろ姿を見せることでメッセージを渡し、それまでの花が抜かれたりの行為がなくなってきた様子が見られました。コメントターによる、あたたかく子どもを包み込むためにPTAとして取り組むべきことが議論されました。

午後からは、府立鳥羽高校の鳥羽被講会の生徒による「冷泉流被講」のアトラクションがあり、暫し雅の世界を楽しみました。

基調講演では、京都大学大学院のカールベッカー教授による「子どもにとつてあなたは生きていますか」と題して講演があり、「日本らしい素晴らしい伝統文化が現代社会では徐々になくなってきた。現状に、子ども達に、家族のこと、地域のこと、歴史や文化のことを意識させていくことの大切さ」を話されました。私たち大人達が受け継いだことをしっかりと伝えていくことの大切さをあらためて思いました。

## 重心教育部

### 親と子と先生の集い

六月十九日(日)、重心教育部では今年度も二病棟と三病棟に分かれての参観(PTC)後、学校のプレイルームに全員集まって懇談会が行われました。

授業参観では、各病棟ごとに集まって、いろいろな楽器や日用品などを持ち寄り、カエルの鳴き声に見立てて、みんなで賑やかに「カエルの合唱」の演奏会をしました。保護者や家族の方々にも協力していただき、子ども達と楽しい時間を過ごすことができました。

懇談会では、「学校と病棟との連携」や「子どもたちのために保護者ができること」等について活発に意見が交わされました。学校と家族が連携をし、子どもたちが過ごしやすく、充実した生活が送れるよう確認をしました。



## 病弱教育部

### 親と子と先生の集い

七月十五日(金)、病弱教育部では親と子と先生の集いを開催しました。

午前中はお母さんといっしょに料理を作って食べました。メニューは子どもたちが自分の病状を考えて選んだ、カロリーを抑えた「大豆ドライカレー」でした。

午後からは、ゲーム(じゃんけん列車、フルーツバスケット、スプーンリレー)をしたあと、一学期、頑張ったことを一人一人が発表しました。

司会や進行役も子供たちが主体になってしました。文字通り親も子も先生も一緒に楽しめた行事になりました。



## 通学高等部部活支援

### 親と子の交流を図りました

夏休み後半の八月十九日(金)PTAの部活支援が多くの保護者の皆様の参加のもと、行われました。猛暑の中、再開された部活動では、通学高等部の生徒たちが汗を流しました。そんな生徒達の頑張りを応援すべく、保護者の皆様も多数参加され、朝の仕込から調理までご協力をいただきました。今年はお父さんの参加もあり、弟さんや妹さんも一緒に腕をふるっていただき、和やかに活動することができました。

ご参加いただきました保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

(部活支援担当)



## 重心教育部 交流及び共同学習

五月三十一日、重心教育部中学部二年生二名が、城陽市立青谷小学校五年生五十八名、梅の実学級三名の児童との交流及び共同学習を行いました。

青谷小学校の体育館で、五年生みんなの合唱とリコーダーの演奏に迎えられ、重心教育部の二人も笑顔いっぱいになり、一緒に風船運びリレーをして楽しく過ごすことができました。

また、七月二十九日には、「城陽市仲間いっぱい夏のつどい」に、同じく二名が参加しました。城陽市の小・中学生や特別支援学校の子とも達と一緒に、青谷小学校の大きなプールに入り、水しぶきをあげながら、気持ちよさそうにプール遊びを満喫しました。顔なじみになった青谷小学校の友達も声をかけてくれ、とても楽しい夏のつどいとなりました。



## 「泊研修に行く」

通学高等部 二年生

五月十九日から二十日まで、八幡のレクリエーションセンターに一泊研修に行きました。一日目の買い物はみんなと行動してちゃんと具材を買うことができました。買い物も結構楽しかったです。他の人たちもちゃんと買い物できていました。みんなと団結して、こういう行動をしつかり守らなければいけないという勉強になりました。食事作りでは、カレーとツナサラダを作りました。人参を切る係をやってみて、意外と野菜を切るのが楽しく感じました。また、きゅうりを薄く切るのも楽しかったです。そして完成、とてもうまくできて味も最高においしかったです。キャンプファイヤーでのクラスレクリエーションは少し緊張して失敗したところもありましたが、お互いに頑張れたことはうれしかったです。ゲームも楽しかったですが、最後の肝試しはすごく怖かったです。女子みんなが大騒ぎしすぎてとても疲れました。

一泊研修って、こんな行事だったとは思いませんでした。でも友達の良いところを見つかったり、他の人の協力が必要だということがとても印象的な行事でした。また、みんなと共に努力して、友達のいいところとかもつと見つけたいです。



## 進路実現に向けて

通学高等部 三年生

私は量販店で五月からあった現場実習の三週間と夏休みに職場実習として二週間行かせてもらいました。

現場実習では、今までの実習で体験したことがない仕事内容が多かったのが、仕事を覚えることが大変でしたが、毎日やっていると少しずつ覚えていきました。この時に覚えたことは、夏休みの職場実習でも活かすことができました。

実習させてもらって学んだことは「いつでも笑顔でいること」です。人と関わることの多い職場でしたので、従業員さんとの挨拶や会話でも常に笑顔で感じよく受け答えることで人間関係をうまくいくし、お客様に商品の事を尋ねられた時も、きちんと接客できました。学校生活では愛想のない顔をしている時もあるので、進路実現のために少しでも気をつけたいと思います。



## 保健室から

「思春期真っ只中」



高校生の時期は、ホルモンの関係で体や心が劇的に変化します。親世代ももちろん「思春期」があったはずなのですが、自分のことはすっかり忘れ、子どもの様子に戸惑うばかりですね。

この時期、子どもとの「距離感」が大切です。子どもの感情にいちいち反応してはこちらの身が保ちません。一定の距離を保ちながら、「ちゃんと聴いてるよ。気にかけてるよ。」というメッセージを送ることがポイントです。具体的には手作りおやつ（ここがミソ）にメモを添えて。面と向かって言いくいことも「書く」ことなら大丈夫。さらに、一緒に何処かに出かける（映画、食事、買い物等）。最初は照れて嫌がる素振りを見せても、子どもはどこかで満更でもなく喜んでくれるものです。そして、子どもが話す内容を整理してあげることも必要です。

「〇〇のことで怒っているの？」「〇〇が嬉しかったのね？」と確認すると、子ども自身が言いたいことが明確になります。親子にとって二度とないこの「時代」。大切に楽しんで過ごしてください。

## 卓球大会・水泳大会で 通学高等部生徒 大活躍

七月十七日（日）に行われた全京都障害者スポーツ大会卓球の部には、本校通学高等部生徒の十二名が参加し、日頃の部活動や体育で培った力を発揮しました。今回の大会では本校卒業生も多数参加したり、組み合わせの巡りあわせで、決勝トーナメントで好成績を収めることはできませんでした。



その中でも、三年生女子がリーグで優勝し、一年生の男子は予選での戦いぶりが評価され「敢闘賞」をいただきました。次回は十月に行われますスポーツ交流会や一月のチャンピオン卓球大会にむけ、日々の練習を積み上げてもらいたいと思います。

一方、八月二十一日に行われた水泳大会では、メダルラッシュにわきました。各種目とも参加した生徒が全力を出し切り、結果につながりました。金メダル十三個、銀メダル九個、銅メダル六個を獲得し、リレーでもDチームが一位、Aチームが二位に入り、城陽



支援学校の実力を見せつけました。二年生の女子と三年生の男子は二種目で大会新記録を樹立し、注目を集めました。次は全京都障害者総合スポーツ大会陸上競技の大会が九月十九日に行われます。今年も大きな成果をあげてもらいたいと思います。選手の皆様、本当に御苦労さまでした。

## ふれあい・心のステーション まごころで販売しました！

九月七・八日の両日、大丸京都店で行われた「ふれあい・心のステーション」、二日間で約五千人のお客様のご来場をいただき、大盛況で終えることができました。今回の販売では、城陽支援学校は会場正面にブースを構え、今回のイベントの顔として販売を行いました。質の高い製品と落ち着いた接客態度など、多くの支援学校がブースを設ける中、際立った存在でした。大丸の販売員の方も絶賛の販売でした。また、多くの保護者の皆様もご来場いただきご購入されておりました。ありがとうございます。

